



奉仕を通じて 平和を

Peace Through Service



国際ロータリー第2660地区 ■吹田江坂ロータリークラブ.....

# SUITA ESAKA ROTARY CLUB

## CLUB WEEKLY BULLETIN

創立年月日 / 1990.2.27  
事務所 / 〒564-0063 吹田市江坂町1丁目23番101号(大同生命江坂ビル12F)  
TEL06(6821)0222 FAX06(6821)0206 E-mail:esaka-rc@lake.ocn.ne.jp

例会場 / 新大阪江坂 東急イン・3F 〒564-0051 吹田市豊津町9番6号 TEL06(6338)0109 例会日 / 毎週火曜日 12:30~13:30  
会長:寺井正昭 幹事:成松重人 会報委員長:田中弘

### 2012年8月28日 第1057回例会(第1056号)

#### ○○ 本日の例会 ○○

今週の歌 「我等の生業」

卓話 「『まいど1号』について」

株 大日電子

代表取締役 枝 本 日出夫様  
(吹田西RC)

#### ○○ 次回例会のお知らせ(9月4日) ○○

卓話 「私の職業」

岸 本 裕 会 員

#### 前回〔8月21日〕例会記録

#### 来客

前炳匡君(元国際親善奨学生)  
木村悠太郎君(関西大学RAC)  
柳勇多君(")  
森井永実君(")  
片岡沙希君(")  
平岩志洵君(")  
白坂美緒君(")  
大矢千紗君("

会員ご家族様 39名

#### 会長の時間

寺 井 会 長

本日の例会は移動例会とさせていただき、『太閤園』ガーデンホールにおいて『夏の家族会』を兼ねて開催させていただくことになりました。会長の挨拶は後程の家族会の挨拶にかえさせていただきます。  
なお、当クラブの元国際親善奨学生である<sup>ゆうへいきょう</sup>前炳匡さ

#### 出席報告

大 井 委 員

#### 【8月21日】

在籍会員 38名(内出席規定適用免除者 11名)  
出席会員 25名(内出席規定適用免除者 6名)  
ホームクラブ出席率 75.76%

7月24日のMUを含む出席率 97.14%

んより、8月下旬にアメリカより一時帰国する予定であり、その時に皆さんにお礼の挨拶をしたいとの連絡があり、うまく日程調整ができましたので本日の例会及び家族会に出席をいただいております。後程ご挨拶をしていただきます。

(前炳匡さんは5年半勤められたニューヨーク州ロチェスター大学医学部を辞められ、昨年9月よりカリフォルニア州のカリフォルニア大学、Davis校、医学部、公衆衛生学科の准教授として赴任されてあります。順当に行けば5~6年後には教授に昇進されるとのことです。)

#### ニコニコ箱

今村会員 家族会をお祝い致します。

長島会員 家族会のお祝い。

西上会員 家族会を祝して。

西山会員 夏の家族会に参加ありがとうございます。

#### 関西大学RAC例会出席担当

Cグループ 八橋、赤尾、芳賀、今村、岸本、  
西本、庄瀬各会員

9月

会場:関西大学千里山キャンパス  
中央体育館 図書資料室

時間:19:00~20:00

庄瀬会員 楽しい家族会を！  
田中(弘)会員 ある出し物の成功を祈って。  
寺井会員 夏の家族会！ バンザイ！  
本日分 46,000円  
累計 282,000円

## 帰国報告

元国際親善奨学生 両 炳 匠 君



本日は家族会にご招待頂いた上、帰国報告をする機会を頂きありがとうございます。

初めてお目にかかる会員の方も少なからずいらっしゃるようですので、略歴を申し上げます。私は在日韓国人2世として大阪に生まれ、北海道大学医学部を卒業後、東淀川区で開業する両親の診療所を継ぐ予定で大阪大学整形外科に入局しました。臨床研修中に、医療経済学に興味を持ちましたが、その頃の日本では医療経済学を学べる大学が無く、この分野で最も進んでいる米国に留学することを考えました。幸い貴ロータリークラブからロータリー財団2660地区国際親善奨学生としてハーバード大学修士課程（1996-97年）に留学させていただきました。ハーバード大学在籍中に、医療経済学の研究者を目指す決意をし、貴吹田江坂ロータリー・クラブの皆様に基金を設立いただき、ジョンズ・ホプキンス大学院博士課程在学中の3年間（1997-2000年）甚大なご支援をいただきました。

日本の医師（当時で約20万人）で最初に、医療経済学で博士号（PhD）を2002年に取得しました。当初の予定通り日本の大学で研究・教育職を就くために就職活動をする一方で、ある種の保険として米国での就職活動も並行して進めていました。たまたま米国での仕事のオファーが先に来ることが重なり、渡米して17年が経ちました。ジョンズ・ホプキンス大学から博士号取得後は、スタンフォード大学医学部（2002-2004年）、米国厚生省疾病管理予防センター（2004-2006年）、ニューヨーク州ロチェスター大学医学部（2006-2011年）を経て、昨年9月からカリフォルニア大学デービス校医学部公衆衛生学講座准

教授として医療経済学の研究と教育に従事しております。

過去17年間継続して米国の大学・政府研究機関に所属しておりますが、日本の医療制度・政策改革に貢献するため、様々な学術活動を行ってきました。一例は、日本語での書籍・論文の出版です。前回（2006年8月に）貴クラブの例会で帰国報告をした際には、会員の皆様全員に拙著「『改革』のための医療経済学」（2006年6月出版）謹呈しました。この単行本は、貴クラブの長谷川元会長が社長でいらしたメディカ出版から出版されました。幸いこの種類の専門書としては売れ行きが良く、日本では約6千部（スタンフォード大学経済学部青木昌彦名誉教授の推薦のお陰で、中国での政策提言に貢献できる優れた経済学書シリーズの1冊として選ばれ、出版された中国語版では約3千部）売れ、オンライン書店のアマゾンの売り上げランキングでも経済学分野では1位、全書籍の中でも30位まで上がりました。さらに、光栄にも日本経済新聞が選ぶ2006年度の「ベスト経済学・経営学書20冊」の1冊にも選ばれました。

拙著が注目されたお陰で、1-2週間の日本短期滞在で多いときは10件以上の講演を引き受け、日本の医療制度・政策にささやかながら貢献を続けております。これらの講演の依頼は、経団連、朝日新聞論説委員、東京大学、日本医療経済学会などから來ました。また、昨年、日本の医療皆保険制度50周年を記念して国際的な学術誌Lancetに出版された研究論文では、東京大学、ハーバード大学教授らと共に、日本の医療保険制度の改革案を医療経済学者の立場から提言しました。

渡米して17年もの間、ロータリー・クラブ奨学生としての期間を終えた後も、厳しい状況になった時は、貴クラブの皆様のご支援を思い出し、精神的な支えとしてきました。米国の大学院（特にハーバード大学やジョンズ・ホプキンス大学の様ないわゆるトップスクール）に留学する際の入学審査では、奨学金の有無が大変重視されます。留学のための奨学金は数百もありましたが、在日韓国人という特殊な立場ゆえに、応募資格のある奨学金が皆無に等しく、留学すること自体が私にとって「夢のまた夢」に思えました。貴クラブのご厚情のお陰で、夢のまた夢が実現しただけでなく、日本と米国の医療政策に医療経済学者として関わる幸運に恵まれましたことに、改めて御礼申し上げます。今後も貴クラブの皆様のご期待に応えるよう、微力を尽くしたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。